

〔最優秀賞〕

◇ みんなカッコいい ◇

犬伏東小学校 6年 石川 蘭

おじいちゃんがテレビで高校野球を見ていると、お母さんが

「この球しん、女の人？」

と言いました。マスクをつけていて、なかなか分からなかったけれど、マスクを外したしゅん間に女の人だと分かりました。わたしは、女のしん判なんてめずらしいなと思いました。お母さんもびっくりしていました。お母さんはその後すぐに、インターネットでこのしん判の人を調べました。この人は、お兄さんのえいきょうで小学生のころに野球を始めて、中学生まで続け、高校生の時には野球部のマネージャーを務めていました。高校1年の冬に受けた講習会をきっかけに、しん判員として野球に関わり続けることを決めたそうです。それを聞いて、すごくかっこいいなと思いました。同時に、どうして今まで女のしん判がいなかったんだろうとも思いました。

イメージ的には、保育士やかん護師は女の人が多く、警察官や消防士は男の人が多いです。でも、わたしが幼稚園の時には男の先生がたん任だったし、わたしの女の子の友だちは野球をがん張っています。男だから、女だからと差別することはないのです。ピアノをがん張っている男の子も、サッカーをがん張っている女の子も、仕事をがん張っているお父さんもお母さんも、みんなかっこいいのです。

わたしは、ビーズやレジンでキーホルダーを作ることが好きです。友達にも作ってプレゼントすることもあります。作る時には、

色やかざりのパーツなど、プレゼントする相手のことを考えます。男の子だから黒や青、女の子だからピンクや赤みたいな決め方はしないで、相手のイメージで作ることが多いです。むらさきが好きな男の子、水色が好きな女の子、好きな色も十人十色です。男だから、女だからといったイメージにしばられることはないと思います。

男女関係なく、みんなが幸せに過ごせる世の中になるために、おたがいを認め合い、おたがいの考え方を尊重することが大切だと思います。学校でも家庭でも社会でも、人それぞれの良いところが、ふさわしい場所で発きできたら、きっと自信にもなるし、みんな気持ちよく過ごせると信じています。そのためには、まず、身近なところから自分は何ができるのか考えました。学校や地域では、元気なあいさつを心がけたいです。家庭では、お皿洗いやそうじのお手伝いをがん張りたいと思います。